令和 04 年 04 月 22 日(金)

かつしか異業種交流会

令和 04 年度　事業計画

テーマ ： 交流会が抱えている課題の洗い出しと

会員が参加意欲の湧く魅力の復活

+【緊急テーマ】コロナ禍における会員企業の事業継続の支援

【かつしか異業種交流会がかかえている現在の課題】

・かつしか異業種交流会の魅力の低下と存在意義が不明

・分科会/会員プレゼンへの参加意欲の低下

（出席率の低下および退会者の増加）

・組織が複雑化している

・限られた予算にも関わらず各会員の役割分担が多すぎる

・分科会代表の成り手不足

・新入会員の顔がわからない（古い会員の顔がわからない）

・新入会員へのケア不足（よって新入会員が 2～3 年で辞めていく）

・総務　宮本委員長の後継者がいない（総務の負担が大きい）

活動方針

会員企業のビジネスを拡大と企業の質を高める事を目的とした

プロフェッショナル集団 【かつしかアライアンス】 を目指す

（金の貸し借り以外）経営に困った時に相談に乗れる万屋集団

「会員交流」

（1） **全会員参加行事を増やし**、全会員相互の理解と事業交流の活性化、また新入会員の歓迎の場を拡充

（2） **会員企業社員の交流をはかり**、スキルの向上、視野の拡大と発想の転換から企業を越えた部門交流活動を醸成

（3） **新入会員増強のためのイベント**を全体例会などで開催

「経営力向上」

（1） **著名な専門家、経営者を招いて**夏、冬と講演会や ZOOM による会員企業に役立つオンラインセミナー、会員工場見学会などの実施

（2） 「うちの会社 こんなことできます」など**ホームページの見直しと充実**

（3） **共同購買制度構築の検討** － 安い単価での仕入れを可能にして質の高い購買力を実現

（4） 葛飾区内企業の跡継ぎ問題やコロナの影響を受けている会員企業など**事業承継支援策**を検討

「ものづくり」

（1） 葛飾区産学公連携推進事業の共同研究事例創出に参加し、掲げられたテーマに沿いながら「ものづくり」を推進、**新規事業・新製品開発**を醸成

（2） **葛飾ものづくりコンペティションの開催**の検討

「地域交流」

（1） 会員研修旅行(寅さんロケ地訪問) などを通じ、**他地域との交流**を実施し日本の地域創成の一助を荷担

（2） 産業フェアなど各種イベントへの参加を通じ、**かつしか異業種交流会の魅力を発信**し葛飾区内外企業の会員増強

「産学連携」

（1） 行政と連携し、**葛飾総合高校、東京理科大学との産学交流**を支援

（2） 葛飾区内外の**他校との連携**も模索

改革の提案

令和 3 年度(活動案)	結果		令和 4 年度(計画案)
【令和 3 年度運営/会員増強施策】 ・令和 2 年度に会員登録がある会員は令和 3 年度の会費を半額の 12,000 円とする(今年度新入会員は通常の 24,000 円)。 ・会員から募集をかけ会員増強施策などで使用できる 40 万円の代表者会議承認枠を設ける。	○既存会員の会費半額の 12,000 円は実施済み。令和 3 年度新入会員は通常の 24,000 円を徴収した。また会員増強として高雄敦子さんのコンサートを実施した。1 名の方が入会に興味を示している。		【令和 4 年度運営/会員増強施策】 ・引き続き夏季、冬季全体例会、レクレーションなどをオープン例会として活用し、交流会に興味のある方に参加をしてもらえるよう門戸を開いていく
【運営執行部】 ・総務・広報委員会の体制を仮で見直しし、令和 4 年度以降、会員から幹事を招集し年度行事の運営を行う検討をする ・産学連携委員会を廃止し、渉外担当、代表者会議運営も合わせて見直しする	△渉外担当、代表者会議運営、総務・広報委員会の体制を見直しし実施した。会員から幹事を招集する検討は行わなかった。	⇒	【運営執行部】 ・令和 5 年度以降、代表者会議メンバーでの運営だけでなく会員から各年度行事の幹事を招集し運営を行う検討をする
【総務・広報委員会】 ・総務・広報委員会を廃止し、月 1～3 万支払って事務局を置くことを検討する ・会議の次第、会議の報告書を簡素化する	△引き続き宮本幹事長にご足労願うこととなった。会議の次第、会議の報告書を簡素化はできなかったが宮本幹事長の負担を減らす努力は行った。	⇒	【総務・広報委員会】 ・事務局を置くことは保留とし、会議の次第、会議の報告書を簡素化することで、宮本幹事長に負担をかけることなく会員で運営できる仕組みを構築する
【分科会】 ・今まで通り 6 分科会を続ける 但し、 ① 分科会同士(K&T など)の統合をおこなう ② 情報交換、IT などは ZOOM 開催の時には全会員にオープン例会にし、会員の資質の向上を図る ③ 各分科会で令和 4 年度に廃止し、どのように形を変えて継続するか思案してもらう	▲コロナ禍で情報交換、寅さん以外は活動を停止した分科会がほとんどだった。K&T 分科会は今年度で廃止し、各会員は違う分科会に所属となってもらうことになった。	⇒	【分科会】 ・令和 4 年度中に規定の改定案を作成し、令和 5 年度に 6 分科会を廃止する 代わりに、 ① 「会員交流」「経営力向上」「ものづくり」「地域交流」および「産学連携」の 5 つのテーマにわけて会員に参加をしてもらう ② 全会員が集まる全体例会の開催や、ZOOM などを使用したオンラインセミナーなどを実施する
【委員会】 ・産学連携委員会、ゴルフ親睦委員会を廃止し各渉外担当、ゴルフ親睦担当の特別幹事として代表者会議に必要な時に参加してもらう	○委員会は廃止できた。ゴルフおよび各渉外担当に特別幹事として活動をしてもらった。		
【規約改定】 ・分科会廃止を前提に規約の見直しをする	▲規約の内容を確認するにとどまった。	⇒	【規約改定】 ・分科会廃止を前提に規約の見直しをする

つづき

【全体例会】 ・執行部組織を見直しした上で、会員に負担をかけずに執行部で例会の運営を計画、実行し行事のサポートを行う ・四季ごとに講演会を兼ねた懇親会を催す	△夏季全体例会を延期し秋季に実施、高雄敦子さんのコンサートを開催した。また賀詞交歓会である冬季全体例会は延期されたが定時総会に黒田清久さんをお招きし、講演をおこなった。会員企業レクリエーションはコロナの影響で中止した。	⇒	【全体例会】 ・令和５年度までには執行部組織を見直しした上で、執行部で例会の運営を計画、実行し行事のサポートを行う ・四季ごとに全会員が集まれる全体交流会を催す
【研修旅行】 ・東商葛飾支部で立案された研修旅行への合同参加をやめ、寅さん分科会のロケ地訪問を公式研修旅行とし各地域との人的交流をはかる 但し、東商葛飾支部に本案件の合同参加を提案する	×令和２年度に会員研修旅行として鹿角訪問を実施した。令和３年度はコロナの影響で中止した。	⇒	【研修旅行】 ・「地域交流」活動の一環として継続、寅さん分科会のロケ地訪問を公式研修旅行とし各地域との人的交流をはかる ・東商葛飾支部に本案件の合同参加を提案する
【産業フェアと産業交流展】 ・産業フェアには「ものづくり」と「地域交流」活動の一環として出展を継続 ・産業交流展の出展を見送り「ものづくり」に集中する。いずれ開発された時に出展を検討する	○産業フェアは前半でものづくり体験を実施、大変好評であった。また後半も大洲、新島、宮津、鹿児島、五島から参加してもらい２日間で過去の３日分の売上を計上した。産業交流展は参加見送りした。	⇒	【産業フェアと産業交流展】 ・産業フェアは「ものづくり」と「地域交流」活動の一環として出展を継続 ・産業交流展の出展については見直しを検討する　但し、「ものづくり」の発表の新たな場を検討する
【産学連携】 ・葛飾総合高校、葛飾区産学公連携推進協議会を通じた東京理科大学については、各代表者のみが窓口となって動いているが、会員に門戸を開いて幅広く活動できるよう模索する ・情報経営イノベーション専門職大学、葛飾商業高校との提携も目指す	△葛飾区産学公連携推進協議会にて共同研究事例創出が実施されることになり多くの区内外の参加希望企業が、掲げられたテーマに沿いながら「ものづくり」を推進、新規事業・新製品開発をおこなっていくことになった。葛飾総合高校についてはコロナの影響で学校側から出入り禁止。	⇒	【産学連携】 ・葛飾区産学公連携推進協議会の共同研究事例創出に交流会企業の参加を促し新規事業・新製品開発を図っていく ・葛飾総合高校との交流を発展させる ・情報経営イノベーション専門職大学、葛飾商業高校との提携も目指す